

令和 7 年 第 2 0 回

教育委員会臨時会会議録

とき 令和 7 年 1 1 月 4 日

品川区教育委員会

令和7年第20回教育委員会臨時会

日 時 令和7年11月4日(火)

開会：午後2時

閉会：午後3時10分

場 所 教育委員室

出席委員	教 育 長	伊崎	みゆき
	教育長職務代理者	吉村	潔
	委 員	稲垣	百合恵
	委 員	濱松	誠
	委 員	吉原	幸子

出席理事者	庶 務 課 長	船木	秀樹
	学 務 課 長	石井	健太郎
	指 導 課 長	酒川	敬史
	教育総合支援センター長	丸谷	大輔
	教育施策推進担当課長	唐澤	好彦
	特別支援教育担当課長	新井	正康
	品川図書館長	三ッ橋	悦子
	統括指導主事	齊藤	隆光
	統括指導主事	石原	朋之

事務局職員	庶 務 係 長	安藤	尚之
	書 記	田島	希望
	書 記	羽田	優太

傍 聴 人 数 なし

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を
非公開とした。

次第

第60号議案 品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョン アクションプラン（案）
について

報告事項1 補正予算内示について

報告事項2 令和7年度第2回家庭教育講演会について

報告事項3 教職員の任免等について（退職）

報告事項4 区立学校におけるいじめの重大事態の発生について

報告事項5 第2回市民科検討委員会の実施報告について

令和7年第20回教育委員会臨時会

令和7年11月4日

【教育長】 ただいまから、令和7年度第20回教育委員会臨時会を開会いたします。
署名委員に、吉村教育長職務代理者、吉原委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

初めに、会議の持ち方についてですが、日程第2、報告事項3、教職員の任免等について（退職）、本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき非公開の会議としますが、御異議ありませんか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、全ての日程の終了後に審議をいたします。

それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、第60号議案、品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョンアクションプラン（案）について、説明をお願いします。

教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 よろしくお願いいたします。品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョンアクションプラン（案）について、御説明をさせていただきます。

現在お示ししているものは、アクションプランの案となっております。教育振興基本計画、学びの羅針盤から、副題につきまして、Go my own great voyage、私自身の大航海というふうに銘打っております。ちなみに、申し訳ないんですけども、ここに載せている絵は「a」が重なっております、また今後修正しますので、副題としましてはGo my own great voyage、私自身の大航海としております。

ページをおめくりいただいて、4ページ、アクションプランの目次のほうを御覧ください。ポータルページですと、8ページになります。構成といたしましては、緒言、品川区版学びの羅針盤、第1章、計画の基本的な考え方、第2章、施策の体系、第3章、教育施策の具体的な展開、第4章、用語解説の構成で示しております。

特に、第1章では重点施策について明記しております。

8ページ、今回の資料のポータルページでは、12ページのほうを御覧ください。こちらにつきましては、まず重点施策を4つ示しておりますが、ここではウェルビーイング教育の推進について示しております。関連施策として、ウェルビーイング教育の考え方及びウェルビーイング指標について掲載しております。

次のページを御覧ください。こちらは、重点施策、レジリエンス育成の推進について示しております。ここでは関連施策としまして、レジリエンスを育む教育、すみません、「ス」が抜けておるのもまた修正いたします。探究的な学習、発達支持的生徒指導について掲載しております。

さらに次のページを御覧ください。こちらは重点施策、ダイバーシティ&インクルージョンを実現する教育の推進について示しています。関連施策といたしましては、特別支援教育推進計画の策定、不登校支援について掲載しております。

さらに次のページを御覧ください。重点施策の4つ目、個別最適で協働的な学びを実現する環境整備について示しております。関連施策として、教育DXの充実、働き方改革の推進を掲載しております。

現在進めている各施策を、教育振興基本計画、教育ビジョンで示している柱、方針に分類して、この後それぞれ示しているところです。

各学校に周知後は、教育活動や教育課程作成時の一助として活用してしていく予定となっております。

各内容についても少し触れさせていただきます。今後の流れ、方向性として、具体的に示しておくものがございます。

ページを移動しまして、20ページ、ポータル資料のページでは24ページへお進みください。まず、柱1、一人ひとりの資質・能力を育成する教育についてですが、ここでは方針1の1つ目に、品川区教育検討委員会の設置について明記しております。今後、区立学校教育要領の改訂、またそれに応じて市民科の再構築、探究的な学習の推進にも関連していく内容となっております。

ページを移らせていただきます。51ページ、ポータルの資料の番号は55ページに移動ください。こちらは柱2の施策となります。ここでは、不登校支援について掲載しております。図表の最後のところ、学びの多様化学校の開設、こちらについて明記しておるところでございます。現在、品川区では学びの多様化学校を設置しておりませんが、子供たちの現状を踏まえ、このような計画で進めていく形で示しております。

ページを移動いたします。ページ番号67、資料のページ番号は71ページに移動ください。こちらは柱3の取組になっておりますが、ここでは教育DXの推進について掲載しております。現在、区の子供たちが使っている学習支援ソフトなどを明記しておりますが、(2)のところで教育ダッシュボードの構築というものを明記しております。現在、様々なツールを活用しておるところですが、子供たちに分かりやすいような形で、教育ダッシュボードを今後構築し、子どもたちの学びの充実等を進めていければと考えております。

今後このアクションプランにつきましては、施策の検討や予算の動向等を踏まえ、適宜追記、修正していく想定で作成しておるところでございます。

本日の教育委員会、文教委員会での今後の報告を経て、各学校へは正式に周知してまいります。

私からは以上となります。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。どなたか。

吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 ありがとうございます。

最後のほうで、適宜修正して、予算……、これ、最終的には何月のもので出るんですか。それをまず聞いてから、次の質問。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 現在、11月の教育委員会、文教委員会で報告を経ていきますので、12月中には一度周知はしていくような形で進めてまいります。

ただ、大本の教育振興基本計画自体は5年間の計画となっておりますので、変えませんが、こちらの13ページにあるように、アクションプランについては、適宜、予算

の動向だとか施策の動きがございますので、必要に応じて見直しは図っていく想定でございます。

以上です。

【吉村教育長職務代理者】 分かりました。

【教育長】 吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 では、今のお話を聞いて、アクションプランについては適宜、更新というか、追加されたりしていくということなので、幾つか気がつくことについて申し上げますので、今すぐどうこうというか、このところはちょっと参考にとというか、直す必要があるのかないのかも含めて、気がついたことだけ申し上げたいと思います。

最初に、冊子の7ページのアクションプランの目的と書いてあって、2行目にまた目標の達成と、目的と目標って出てくるんですけど、目的というのは、これ、ここに書いてるように、本計画の目標達成のために具体的な行動を明確にして、年度ごとの実行に移すことで、目標というのは、これは12の方針のことを言っているのかどうかという、そのことを確認したかったということです。目的と目標はどういう関係になって何を指しているのかというのが、ちょっと読んだだけで分かりにくかったので聞きました。

次ですけども、8ページなんですけど、これ、先ほどウェルビーイング指標として、はしごのような形であるんですけど、これってどこかへ出ているものなのかどうか分からないんですけど、10段目の「最も理想的な生活」というのは分かるんですけど、いいと思うんですけど、0段目の「最悪の生活」というのは、これはこういう言葉なんですかね。要するに、理想からは遠いとか、「最悪の生活」という言葉でいいのかどうかというのはちょっと思いました。

それから、9ページなんですけど、9ページのレジリエンスを育む教育の後ろの3行目に、品川区では、3年生、5年生、8年生で非認知スキル、これはどこかにこの授業のことって書いてあるんでしょうか、後ろのほうで。これ、例えば市民科の中でやっていることなのかどうかということなんですけど、これがどこか後ろのほうの取組の中に入っているのかどうかを申し上げたいことです。

それから、9ページの同じく探究的な学習のところで、2行目に、自身の探究課題をもって学習を進めていくということで、これは、一貫プランは完全に個人の探究というふうに捉えていいのかどうか。あるいは、学級全体で探究するとか、グループで探究じゃなくて、完全に35時間という時間は個人の探究の時間として設定するのかどうかということ。これも、別のほうを見ると個人じゃないようにも読める場所があったので、ちょっとそれは確認をお願いしたいなと思いました。

それから、11ページなんですけど、11ページの関連施策の上のところに、教師によるマネジメントがより難しくなっている現状を踏まえた支援に努めていくと書いてあるんですけど、支援というのは、これは環境整備だから、学校への支援ということでもいいのかどうか。もし学校への支援だったら、学校への支援と書いたほうがより分かりやすいかなと思いました。

それからその下に、教育ダッシュボードという言葉が出てきて、これは後ろのほうの67ページに用語の説明でちゃんと書いてあるんですけど、用語の説明を見る前に、一番最初にここで教育ダッシュボードと出てくるので、ここに出てきたときに教育ダッシュボー

ドって何だろうとちょっと思いました。後ろの用語解説を見れば分かるんですけど、そんなことを思いました。

それから、17ページなんですけど、これは個々にというわけじゃないんですが、この主な取組の中に、今回アクションプランのどこを見ても学校選択制のことについての表記というか、それがないように思うんですけど、学校選択制というものも教育委員会の取組としてはすごく大きい取組だと思うので、これがどこかにひもづけられていたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。これは、だからこの中のどこということじゃないんですけど、学校選択制という取組についてどうひもづけていくのかということなんです。

それから、26ページに学力定着度調査の実施というのがあるんですけど、上のほうに品川区学力定着度調査の説明が書いてあるんですけど、これはこういう説明でいいと思うんですけど、短期・中期・長期的な視点で解決策を立て、子どもたち一人ひとりの学力の向上を図っていますと書いてあるんですけど、これって多分学校は、ホームページとかでどういう改善策を進めていくのか公表していると思うんですね。だから、公表という言葉をどこかに入れたほうがいいんじゃないかなというふうには思いました。

それから、43ページなんですけど、これは多分このままでいいと思うんですが、品川のコミュニティ・スクールも、9日の教育委員会で少し、機能というか、形を変えていくということがあったんですけど、その辺のことについては触れなくてもいいのかなということ。

45ページに部活動の地域移行のことがあるんですけど、これも令和8から11まで継続とか書いてあるんですが、これ、前にも教育委員会の中で意見として申し上げたことがあるんですけど、品川区の部活動の地域移行のゴールがどこを最終的に目指していくのかというのがちょっと分からないので、この辺りはどう考えたらいいのか。最終的にどの形に持っていこうと思っているのかというのが、これ、アクションプランだとすると、向こう5年間でどういう形にしていくかというのが大事だと思うので、そこは思いました。

あと、54ページなんですけど、これは多分先ほどの質問なんですけど、予算が決まってからってことなんですけど、スクールカウンセラーのところは、予算が通っていけばスクールカウンセラー増という話になっていくのかどうか。これ、今の段階では多分ここには書けないということなのかなと思ってますけど、その辺のことがあるかなと思います。

それから、64ページの教員研修のところなんですけど、(1)と(3)の若手教員と中堅のところはその前にリード文があって目的が書いてあるんですけど、職層研修のところだけ、若干、職層研修のところにミドルリーダーの育成なんだというあたりの言葉があるといいかなと思いました。

あと、これは余計なことかもしれませんが、68ページの働き方改革の推進が、確かにこの(1)と(2)なんだと思うんですが、ここだけ下がぽーんと空いているので、教育委員会としての取組は2つだけなのかなとちょっと思ったりしましたが、その辺はほかになければしょうがないんですが、ここだけ空欄なので、働き方改革はあんまりほかに取り組をしないのかなって誤解をされかねないかなとちょっと思いました。

すみません、いろいろ言いました。全部を今お答えいただくということじゃなくて、気がついたことを申し上げました。

以上です。

【教育長】 ありがとうございました。

教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 見ていただき、ありがとうございます。それぞれ、お答えできるところと、今後改めて確認していくようなところというような回答になるかと思います。

まず、7 ページの目標と目的につきましては、おっしゃるとおり、教育振興基本計画の目的と各施策の目標というような形で書いているものなので、一度また読み直して、整理していければと思っております。

続いて9 ページの重点施策のほうですけれども、ウェルビーイング指標の例につきましては、今現在推進校の指定をしているところですが、文言についてはまた担当を含めて改めて確認していくような形で考えてまいります。

続いて10 ページのレジリエンスを育む教育につきましては、ポータルページでいくと34 ページになります、こちらの「心」と「体」の健康教育の中に、非認知能力を高める学習というものを掲載しておるようなところとなっております。

また、同じページの探究的な学習の個人自身の探究課題というものをどう捉えるかという話になってくると思うんですが、個人の探究課題なのか、グループなのか、この辺りは、今、我々としては特段学校に縛りをかけているものではないので、自身の探究課題という形で、それが個人であったりグループであったりというようなところはあり得るのかなというふうに考えております。

続いて11 ページ、こちらの学校への支援というところでお言葉をいただきましたので、ちょっと表記のほうは考えるんですが、こちらの施策のほうを見ていただきますと、例えば教員以外が担う仕事として、SSSであったり、エデュケーショナル・アシスタントだったり、そういったものが入っているような考えになっておりますので、学校への支援という形で御理解いただければと思っております。

また、教育ダッシュボードも、おっしゃるとおり後ろにはこうした文言があるんですが、ちょっとこの辺も分かりやすさというところを改めて考えていければと思います。

あと、この後にいただきました学校選択制への表記であるとか、区学力調査につきましても大枠として出しているものがあるんですが、そういったものも含めてどんな表記にするのかというのは改めて見直していければと思っております。

43 ページ、コミュニティ・スクールの記載につきましては、今後の法定化に向けては表のほうに入っておりますので、ほかの部分も含めてここも何かあれば考えていければと思っております。

また、45 ページの部活動54 ページのスクールカウンセラーにつきましては、今後の予算の動向も踏まえているところがございますので、どこまで現時点で示せるかということはあるんですが、記載内容については改めて確認していければと思っております。

あと、64 ページ、ミドルリーダーの記載も改めて検討してみます。

68 ページ、働き方改革につきましては、先ほど申し上げたSSSだとか、違うところに入っているのは、要は複合しているものもございますので、ここでは2つを載せてはいるんですが、ほかにも関連しているものはもちろんあるのかなというようなところ

ろにはなっておりますが、また記載方法については改めて御意見を踏まえながら検討していきたいと思います。

以上となります。

【吉村教育長職務代理者】 ありがとうございます。

【教育長】 ほかにはございますか。よろしいでしょうか。

濱松委員。

【濱松委員】 すみません、ありがとうございます。

ちょっとばらばらとなってしまうかもしれませんが、一つ、聞き逃していたらすみません、ウェルビーイング指標のところに言及があったと思うんですけど、これ、本当に大事だと思っています。私自身も提案をしましたし、子供たちのウェルビーイングもそうですし、教職員の方々のウェルビーイングも大事だと、何度も何度も申し上げていますと。これからここを本気でやっていくという志は理解したつもりですが、もう少しウェルビーイング指標のところを細かくどういうふうに見られようとしているか、もうちょっとだけ、すみません、私がまだ理解が足りていないのか、教えてもらっていいですか。

【教育長】 教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 ウェルビーイングの指標についてですけれども、現在、区立学校の重点校、特別推進校、推進校というふうに指定をしていて、講師の先生と一緒に指標について、子供たちのウェルビーイングを測っていく物差しがあったほうがいいよねということで、一緒に検討しているところです。現在、講師になっているN T Tの研究所の方が、区の事業にも少し関わりがあったりする方なんですけれども、ある程度指標みたいなものを研究でつくられていて、そういったものも参考にしながら、品川区としてどれを項目にしていくか、指標にしていくかということを、今、検討しているところです。

アクションプランの8ページの下の方に、四角の枠に入れているのが1例になってまして、これを子供たち自身が、例えば自分にはよいところがあると思いますか、こういったものを5段階で評価して、今の自分と半年後、1年後の自分がどう変わっていくか、そんなことを見ていくような検討を、今しているところです。

以上です。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 前回、前々回にお示しさせていただいた児童・生徒、それから保護者アンケートの結果をこちらでお示ししましたが、来年度はウェルビーイングに絞った調査にしていけないかということで、児童・生徒のほうはウェルビーイングに絞った調査の実施を検討しているところです。

それから、教員のウェルビーイング、今現在、品川区で勤務している先生方がどんな思いでいるかということも、大学の教授と共同して測っていくというような方向であります。

以上でございます。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。今までテストの点数とか、それで丸、三角、バツみたいな形でやってこられたものを、区長とか教育長や皆さんのリーダーシップで、本当にウェルビーイング指標という新しい、私からしたら新しいと思うんですけど、取組をされるというのはすばらしいと思っていますので、教育委員の一員としても応援したいと

思っています。これから本当に、私が言うことじゃないかもしれませんが、これでいいのかとか、これで正しいのかとか、いろんなことがあると思うんですけど、トップや皆さんの思いというのは貫き通してほしいなと、品川区から始まったということにしていたきたいなと思います。

ごめんなさい、次の質問いいですか。

【教育長】 どうぞ。

【濱松委員】 すみません。これもまた聞き逃したかもしれないんですけど、ざっくりな質問になって恐縮なんですけど、アクションプランのそれぞれの、目標に対してここまでいったら、計画に対してアクションが良くてだとか、丸ですねと。ここが足りてないから三角ですねみたいな、それぞれ成果の指標や数値みたいなものってあるんでしたっけ。

というのも、例えば民間だったら、これが中期経営計画や事業計画、運営方針発表といわれるものだったら、別に数値が全てと申し上げているわけではなくて、大体この辺りまでやっていこうよ、ここまでこうやっていこうよというのって分かりやすい指標があったりすると思うんですけど、ざっくり聞いているので答えにくい質問かもしれませんが、答えにくいかもしれませんが、何かそういう分かりやすい指標で、ここが例えばこの指標、数値を目標にしているんだみたいなところって、どういうところを見ればいいのかと思って、多岐にわたり過ぎて。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 作成する上でもなかなか短期的なものを載せられないのはあるなというところが正直なところございます。ただ、載せているものの中においては、例えば先ほど説明した学びの多様化学校につきましてはこの時点でつくりますよということを、具体的に入れられるものは入れています。ですので、それが一つ指標にはなるのかなと。

もう一つは、ここに掲載しているものというのは、それぞれの各担当にある施策になっていますので、毎回やっている事務事業評価だとか、ああいったところで定期的な評価というのは同時にやっていくというようなことで進めていければという捉えで今のところは考えております。

以上です。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

もう一問、すみません。アクションプランのところで聞くべきなのかちょっと分かりませんが、せっかくなので聞けたらと思います。さっき働き方改革のところもあったと思うんですけど、やっぱり教員不足のところとか、採用の難しさとか、そういうところってあると思うんです。結局、人が足りないやんかというところについて、クリティカルなアクションをここで示さないと、これが我々の意思だと思っていますから、業務削減のところは働き方改革のところにもあったと思いますし、スクールカウンセラーももしかしたら増員できるかもしれないというところもあるかもしれないんですけど、そういうところも、ごめんなさい、また数値ばかり行き過ぎると、またできないものをできるとは言えないという役所のジレンマがあると思うんですけど、まず私が聞いたのは、教員不足や採用の課題と、それに対してどう乗り越えていくかみたいなのところの、まず教員不足について、それ

から採用をどう乗り越えていくかとかも含めて、一旦、教員不足のところをまず教えてください。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 品川区の教員不足だけについて言えば、固有教員の採用をどうしていくかですとか、区で雇っている時間講師をどの程度を補充していくかとかという話になってくると思うんですが、都費教員というのがメインでございますので、配置や採用計画というのは東京都のほうになってきますので、そちらと連携して、当然ながら品川区のほうでも充足していくように働きかけていくということになっていくと考えています。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 分かりました。そうなりますよね、ありがとうございます。

最後の質問です。PDCAのところも、これ、アクションプラン、言うだけじゃ駄目ですよという話は、役所だけでなく民間もそうですし、大事だなと。言って終わりというのが一番避けたいところなので、PDCAのところで、逆にこれまで教育委員・事務局も現場としっかり連携を取ってやってこられたと思うんですが、一方で昨年度やこの5年、次の5年を見て、ここのPDCAが少しできなかった部分が正直あって、だから今回のPDCAは、あえてちょっと役職を避けたいように僕頑張って変化球を投げているんですけど、今までと違うここは工夫したんだとか、ここは正直足りなかったから、ここでこの手を入れて確認していくんだ、それはもしかしたら現場に苦労や負担をかけるかもしれないけど、やっぱりここが大事だねというところなら、それは校長なのか、ごめんなさい、指導課長なのか、教育長なのか、分かりませんけども、あるいは現場の先生にもっとヒアリングをしていこうなのかとか、何か言える範囲で、今あるんだったらPDCAで工夫された点、工夫しようとしている点があれば、なかったら今回じゃなくてもまたPDCAは次や、次の次というか、年度でやっていくことだと思うので、その辺りを教えてください。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 今日、報告を入れますけれども、現在、市民科検討委員会、そうしたところで、なかなか振り返りができてないといったところがあったのかなというところが正直なところあります。

今回アクションプランを出して、PDCAの細かいところでなかったとしても、2つあるとすると、各施策を明示したということ。つまり、教育委員の皆さんもそうですし、学校の先生方も、これを見られるということで、こういったものがあるという理解。そうすると、いろんな目からこれがどうなっているのかというところが一つ出てくるんじゃないか。そこは、PDCAサイクルの中でも利点ではないかなと思っております。

もう一つは、アクションプランの期間のところ、先ほども申し上げた中で、都度見直していくということ。全体の教育振興基本計画は5年ですが、これは都度見直せるというところが、進んでないものがあれば改めて計画を練り直して明記していかなければならない、進んだものであれば、では今後どうするかということをその都度また明記していく形にはなると思います。

以上です。

【教育長】 ほかにはございますか。よろしいですか。

では、品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョンアクションプラン（案）について、

採決をしたいと思います。御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 それでは、採決いたします。

第60号議案、品川区教育振興基本計画・品川区教育ビジョンアクションプラン（案）について、原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 異議なしと認め、本件は原案どおり可決することに決定いたします。

次に、日程第2、報告事項1、補正予算内示について、本件は区の事務事業に係る意思形成過程における案件ですが、事務局としては会議の扱いについてどのように考えますか。

【教育長】 庶務課長。

【庶務課長】 補正予算内示につきましては、区議会の議決前の案件であります。したがって、公正または適正な意思決定を確保する観点から、非公開の会議とすることが適切であると判断いたします。

【教育長】 庶務課長から説明がありました。本件は、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき非公開の会議とし、会議日程を変更して、全ての会議の終了後に会議を開くこととしますが、御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 異議なしと認め、本件についてはそのように決定いたしました。

次に、日程第2、報告事項2、令和7年度第2回家庭教育講演会について、説明をお願いします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、私から、報告事項2、令和7年度第2回家庭教育講演会について御説明いたします。

資料3をお願いいたします。電子では107分の88かと存じます。

教育委員会では、毎年、家庭の教育力向上を目的とした講演会を開催しております。今年度の第2回目といたしまして、「ウェルビーイング子育てのすすめ、子どもの失敗力と探究力～AI時代を生きていく力の育て方」をテーマといたしまして、講師に教育ジャーナリスト・マザークエスト代表として、探究型学習の提唱であったり、新時代の教育、親の役割についてなどの講演活動やセミナー開催など幅広く活動されている中曽根陽子様をお招きし、区の公式YouTubeチャンネル、しながわネットTVにてオンライン配信いたします。

配信期間は、令和7年の11月20日木曜日から、令和7年12月22日月曜日までの約1か月間です。現在、調整中ではございますが、講演会の案内資料にURLとQRコードを掲載し、オンライン視聴を可能にいたします。事前の申込みや予約なども不要とし、どなたでも気軽に御視聴いただける環境を整えます。

また、今年度より対象を拡大いたしまして、区立の小・中、義務教育学校の保護者の方だけではなく、私立学校等に通う児童・生徒の保護者を含め、広く子育てを行っている全ての保護者の方に御利用いただけるよう事業の見直しを図っております。

周知につきましても、区ホームページやSNSなどの活用と併せまして、学校関係者やPTAなどを通じ幅広く周知を行い、より多くの方々に家庭教育に関する有益な情報をお

届けましてまいります。

説明は以上です。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。

では、令和7年度第2回家庭教育講演会についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項4、区立学校におけるいじめの重大事態の発生について、本件は区の事務事業に係る意思形成過程における案件ですが、事務局としては会議の扱いについてどのように考えますか。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 区立学校におけるいじめの重大事態の発生についてにつきましては、内容に個人情報が含まれており、個別のいじめ事案に関する協議、報告の場でもあります。したがって、公正または適正な意思決定を確保する観点から、非公開の会議とすることが適切であると判断いたします。

【教育長】 教育総合支援センター長から説明がありました。本件は、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき非公開の会議とし、会議日程を変更して、全ての会議の終了後に会議を開くこととしますが、御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 異議なしと認め、本件についてはそのように決定いたしました。

次に、日程第2、報告事項5、第2回市民科検討委員会の実施報告について、説明をお願いします。

教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 第2回市民科検討委員会の報告について、説明をさせていただきます。

ポータル資料、98ページを御覧ください。こちらにありますとおり、第2回市民科検討委員会を令和7年10月22日に実施いたしました。ここでは大きく協議として、児童・生徒、教師調査について、そして、これからの市民科の推進体制について事務局より御説明をし、各委員より御意見をいただいたところでございます。各委員の意見につきましては、次ページからとなっておりますが、各委員からの意見を反映し、調査及び今後の推進体制の充実を図ってまいります。

資料101ページに飛んでいただいてよろしいでしょうか。

【教育施策推進担当課長】 A3の横長の資料になります。こちらは、第2回検討委員会で共有し、各委員からの意見を反映した内容となっております。

次のページからは調査内容となっております。第1回検討委員会で出た項目、市民科の充実に向けて、学習内容について、推進体制について、関連設問を設け、今後調査を実施していく形としております。次のページの調査の一番最初のページには、調査の構成を示しており、次ページからはそれぞれ児童・生徒用、教員用調査となっております。こちらは委員からの修正を踏まえた内容となっております。

もう一度、A3のほうにお戻りいただいてよろしいでしょうか。A3の用紙、中段、推進体制の欄を御確認ください。こちらにつきましても委員からの意見を反映した内容となっ

ておりますが、市民科の調査については市民科改定に向けての動きとなりますけれども、推進体制につきましては、次年度から実施できる内容は実施し、市民科の充実に努めていく形となっております。現在の市民科においても充実していくことができる内容となっておりますので、こちらを次年度以降進めていければと考えております。

報告は以上となります。

【教育長】 説明が終わりました。質疑はございますか。

稲垣委員。

【稲垣委員】 ありがとうございます。市民科、充実していくとすごくいいなと思っているんですけど、アンケートのほうの案について、少し気になったことを言わせていただこうかなと思います。

まず、前提として、子供がどれぐらい市民科というのは何を学ぶ科目なのかというのを理解できているのかというのを、ちょっと聞いてみてもいいんじゃないかなというのを思ったのと、アンケートの設問に全部、最初に「市民科の授業を通して」と全部に入っているんですけど、これ、子供が読むとすごく読みにくくて、問題をちゃんと読もうという気がなかなかなくなっちゃうんじゃないかなというのの一つ。

あと、それぞれの内容って、市民科に限らなくても、学校の生活の中で自然に学ぶこともたくさんあると思うんですね。なので、子供自身としても市民科で学んだからできているという聞かれ方をすると、そうでもないけどみたいになって、回答が結構難しいんじゃないかなという気が少しして、そういう意味では「市民科の授業を通して」という指定をしないで、日常生活における課題を解決しながらとかという、その質問をした上で、それに市民科の授業が役立っていますかというような、聞き方を2段階にしてもいいんじゃないかなというのは少し思いました。

9年生と6年生の質問が横並びになっているんですけど、これ、多分同じことを聞いているという意図だと思うんです。なんですけど、よく読むと6年生の質問と9年生の質問でニュアンスが違うところが結構あるんですね。なので、これ、別に6年生の質問と全く同じものを9年生にしてもいいんじゃないかなという気もしますし、6年生と9年生の質問を同じ質問としてまとめて統計を取るのであれば、質問も同じほうがいいんじゃないかなと。9年生にあえて深く言葉を増やして聞きたいのであれば、完全に同じ質問として統計を取るのはちょっとずれてきちゃうかもしれないなという気もしました。

以上です。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 まず、1つ目の「市民科の授業を通して」というところなんですけれども、調査研究会においても検討委員会においても、文言というのは一つ話題に出ておりました。ただ今回は、やはり市民科の授業をよりよくするという視点に立って、市民科の授業に特化してまず聞いていきたいということです。ただし、そのためには、委員おっしゃいましたとおり、先生の丁寧な説明、子供に説明するときのものが要になるので、こちらには今ないんですけども、通知の際に、校長先生用の通知と各先生方用の通知を用意して、できる限りまず丁寧に説明をして実施できるような形、これを整えていければと思っています。

もう一つ、6年生と9年生の設問についてなんですけれども、これ、(1)から(5)に

については、今市民科でやっている各領域の設問になっています。当初は、領域なので多岐にわたっているの、何々だったり何々だったりだとか、全部を入れようとするとうすごい一つの質問に対して5つも6つも要素が入るような形となったときに、やはり各学年、6年生では、9年生ではという学習内容に基づいて、1つのものを領域ごとに聞こうという形で精査した形となっているところなんです。なので、分かりやすく横並びで示してはいるんですけども、ひょっとしたら委員がおっしゃったように、若干、少しつながりが見えづらいものはあるのかなというところが正直あるかもしれません。ただ、この中でどの1つの要素を聞くかという形で、今現在、こうした形で示させていただいておるところではございます。

【教育長】 よろしいですか。

【稲垣委員】 はい。

【教育長】 ほかにございますか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

A3のピンクの紙のところの、推進体制のところなんですけど、これ、充実と新規とあって、新規をやればいいというものではないと思うんですが、市民科をよりよいものにならないといけませんよね、いや、していきたいですよねとなって、研修だったり連携の強化だったり、確かにこう書くよなと、自分が企画でもそうなるんですけど、現場の先生や学校からしたら、誤解を恐れずに言うと、面倒くさいというか、何かもう大変なんだよみたいなことになったときに、これ、市民科だけの話じゃなくて、さっきのアクションプランやこれまでの我々の議論にも関わると思うんですけど、市民科をやりたい、やってくれ、品川区としての思いがあるので、だけど都教員の方がメイン、もちろんそうじゃない人たちも、区の固有教員もいますけど、彼ら彼女ら、学校や現場、先生方が、よしやろうというところって、ちょっとこれ紙にすると、充実や新規や、アプリ、連携、研修、推進、丸々とかってなると思うんですけど、何かその辺りって唐澤さんの的にどう思われているのかなというところ、ハードとソフトと言っているのか。その心、ハートをわしづかみにできるような、魔法はないかもしれませんが、その辺りが重要なんじゃないかなとやっばり思うんですね。

ごめんなさい、長くなって。もうちょっと言うと、決して、委員の先生方の声というのは、私も知り合いの方もいらっしゃいますし、すごい参考にしたらいいと思うんですけど、もちろんやるのは現場の先生方がやって、そのハートをわしづかみにする何か工夫って、ごめんなさい、ちょっと私も分かってない部分があるんですけど、どういったところかなと思って。ハートをわしづかみにすることが目的なんじゃなくて、大変なんだけど頑張ろうねというところがあったり、よし、やっていこうというところの鍵というところを、どう考えられているかなということを教えてください。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 おっしゃるとおり、今、充実という形で幾つか示しているものも、実は今現在は実施していなかった、過去実施していたもの、ただそれは新規というふうに書くというよりは、やはり充実という形で今載せさせてもらっています。なので、充実が多いように見えるというのが一つあるのかなと。

もう一つは、先生方の意欲を高めるというところについては、先ほどのアクションプランのほうにもあると思うんですが、要は教員が本来行うべき内容に注視できるような環境を整えていきながら、品川区の独自の教科というものも推進していく。ただ、次年度につきましては、そのために全部丸投げにしまうとそれはそれでやはり疲弊しますので、例えばここに載っているものもできる限り我々ところで、ある程度、研修の運営にしても、例えば校内で行う研修についても資料はこちらで作りますよとか、そういった形でまずはやっていって、広く裾野を広げて、また次年度、その次にまずつなげていきたいというふうに考えた推進体制というような形になっているものと理解しています。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。決して私の発言が誤解されていると思ったわけではないんですけど、改めてというか、一応念のため申し上げておくと、現場の先生が大変なんだから、事務局が頑張らましようと言っている訳ではなくて、ポイントは、ちゃんと先生方、事務局や我々教育委員や現場の先生方が一丸となってこれやろうよと腹落ちするという、理想像がそうです。もちろん現場の現実には難しいものあると思うんですけど、その中でそれぞれが尊重し合って、子供たちをしっかりと見るということが大事だと思うんですね。

その中で、この資料をこれからどんどんアップデートしたりとか、施策に落とししていくときに、要望というか、コメントを残しておきたいのが2つ、3つありまして。

1つ目は、私みたいに意地悪なこういうことを言う人間は少ないと思うんですけど、何か増えてばかりじゃねえかと。唐澤さんからお答えいただいたら、いや、そうなんだよ、ほかでもちゃんとスクールカウンセラーもやろうとしているじゃないですかとか、だから何たらこうたらをやろうとしているじゃないですかというところを、しっかりこの説明の中でも言ったほうがいいと思っていて。ただでさえというか、もしかしたら市民科をやろうとしているときに、面倒くさいなと、やっぱり複雑なことをやろうとするときって面倒くさいなと思う人がいるので、やっぱり説明を私は入れたほうがいいなと思います、謙虚に。それが1点目。

2点目が、これ、さっきなるほどなと思ったのは、充実、増やすばかりじゃなくて、数年前に消したものをまた増やすとか、あるいはちょっとやり方を変えているとかという、充実と新規だけでなく、もうちょっと細かく、復活とか。めちゃめちゃ細かい話ですけど、じゃあ何のために復活したんですかという唐澤さんや事務局の思いって伝わると思うし、それが駄目じゃないかと言われても、いやいや、それは試してみないと分からないんじゃないですかと言えらると思うので、そこは言い方の問題なんですけど、あるなと思ったのが2つ目。

3つ目が、評価の部分。これ、どうしても東京都がやります、やる人が多いのしょうから難しい部分はあると思いますけど、固有教員以外は、固有教員も含めてなのかな、分かりませんが、評価の部分って、品川区の、ごめんなさい、市民科だけでは評価できないものも、ちゃんと子供たちも、満足というか、学びになって、それがやっぱりいいなと思った、それを先生方や学校は、あるいは校長も含めて、評価されるべきだと思うんですね。そんなの当たり前じゃないかだと思うんですけど、そのサイクルをつくっていく。それは、ほかの国語、算数、理科、社会的なものもそうでしょうし、それ以外のところも、

難しいのは分かって言っているんですけど、何か工夫というか、そこを頑張らないと、結局やって大変、頑張った負けというのは、これだけ失敗力を何たらとか、挑戦する力を何たらって研修でやりながらも、市民科やった？ やったよ、もちろんだよというのが先生方に言える空気というのが大事で、子供たちも、さっき稲垣さんからあったように、めちゃめちゃおもしろいじゃん、やっぱり品川って楽しいよねというのが理想ではあると思うんですね。それ、どこまで追っかけるかって議論はあるんですけど、だからその空気感を出すには、評価というポイントは大きいと思います。

なので、これはなかなか簡単にできないのは分かっていますが、市民科のこういうような評価ポイントを上げるとかみたいなのが、例えば民間だったら、より重点施策には、そこを頑張った人間には評価を上げるということってあると思うんですけど、何かそういったことを考えるというか、指導課長や唐澤さんや教育長が回られるときに、それだけではないのは分かっていますが、しっかりそこは見えてあげるとするか、品川区の独自の教科だからこそ、加点なのか、いや違う見方なのかというのは、改めてしっかり向き合うべきなんじゃないかなと思います。

以上です。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 まず、1つ目の学校への周知の際は、おっしゃるとおり、丁寧の説明をしていければと思っております。

そして、2つ目の充実、新規で、確かに充実と書いてはいるものの、今年ベースのようなものもあるので、そこは伝え方等工夫していきたいと思っています。

評価につきましては、現在の調査研究会で熱心に活動されている先生方がいますので、私のところでできるところがあるとする、こうした報告をする際に改めて先生方の御協力をお願いとか、そうした先生方がいるというものを校長連絡会等でも周知して広げていければというふうな形で考えております。

以上です。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 すみません、最後。さっきの細かい充実、新規、復活とかで、ここには言わなくてもいいと思うんですけど、もちろん唐澤さんたちの頭の中には、削減みたいな、ちゃんと皆さんの仕事、市民科に関する仕事を減らしていますと。またそれを言い過ぎちゃうと、何おまえ減らしたことを自慢してるんだとなるんですけど、ちゃんと減らしていますよというそのバランスは、言うのか言わないのかは置いておいて、僕は全然言ってもいいと思うんですが、言い方次第であると思うんですけど、そこはしっかり考えるといいんじゃないかなと思いました。

以上です。

【教育長】 ほかにございますか。

吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 これ、12月2日に次の開催予定になっているんですけど、今日のアンケート項目は今回の検討会でオーサライズされて、これでいきましょうというふうになったのかどうかをちょっとお聞きしたいんですけど。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 第2回の検討委員会で御意見をいただいたものを反映したものを、全ての委員の方にお送りをして確認を取っておるところでございます。

【教育長】 吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 そうすると、これはもう厳しいのかもしれませんが、私も稲城委員と同じことを思っていたんですね。この聞き方だと、これは市民科でこうなつたと答えることがいいのかなとちょっと思いました。例えば、こうこうこういうことをできるようにするために市民科の授業が役に立ったとか、効果があったとかというなら答えられるかなと思ったんですね。そうじゃないと、市民科でこのことができるようになったのかという、それはちょっと乱暴かなという気もしないでもないですね。

だけど、委員の方からそういう意見が出なかったということであれば、これでもいいのかもしれませんが、そこは私も稲垣委員と同意見で、この聞き方で本当にいいんだろうかというのはちょっと思いました。最終的にどうするかは検討委員会で決めていただければいいかと思いますけど。

以上です。意見として申し上げました。

【教育長】 ほかにございますか。

稲垣委員。

【稲垣委員】 すみません、ちょっと追加で一つ。推進体制のほうについてなんですけど、委員の方の意見の中にもあったんですが、地域人材との連携強化って、市民科は探究とかすることになってくるとすごく大事なことだと思うので、今までも地域との連携のシステムがすごく弱かったような気がしていて、基本的には学校地域コーディネーターの方に頼り切りのようなところがあったので、地域との連携をどうしていくのかというのがうまく回れば、市民科を運営していく上での教員の負担も多分軽くなっていくところだと思うので、地域との連携の部分についてはもうちょっと強化する方向で考えていただいてもいいのかなと思っています。

以上です。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 先ほどの濱松委員の意見とも重なるかもしれません。まずできることとして、今年度、学校地域コーディネーターのスキルアップ研修に私のほうが行ってきて、現在の現状について周知するとともに、各コーディネート同士連携していただいて、どんな方を呼んでいるのか、どんな方をこれから呼べばいいのかというような協議をさせていただいたところです。

学校地域コーディネーターの代表も検討委員会に入っていますので、まずはそうした下ならしというか、できるところから進めていきながら、具体的にどんな形が取れるのかというのは継続した形で今後検討していきたいと思っております。

【教育長】 ほかによろしいでしょうか。

では、第2回市民科検討委員会の実施報告についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

では、続いて、非公開の会議を開きます。

— 了 —